

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぬまづラビットハウス		
○保護者評価実施期間	R6年8月1日		R6年8月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	R6年8月16日		R6年8月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R6年9月13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・1人1人に対して個別療育・集団療育・運動療育全てを利用日に行えるようにカリキュラムを作っている所。	療育に合わせて活動室をパーティションなどを使い、集中して活動が出来る様に工夫をしている。また園庭などが無いので粗大運動が出来る様に隔週で公園等に行き粗大運動が出来る様にしている。プールを行う場所が無いので、夏の期間は水遊びが出来る池やプールのある公園に行っている。	季節に合わせた製作や行事なども療育要素を入れながら行いその中で子供達の成長を確認している。また、毎日振り返りを行い共通理解や次の療育に繋がるようにしている。
2	・利用した日に行った療育の内容やどんな様子だったのかなど細かく療育日誌に記録をして毎回持ち帰ってもらっている事 ・その他に連絡帳に家や園でのお子様の様子や保護者様の悩みなど記入して下さる事	その日のうちに今日の療育の内容や様子を保護者の方にお伝えできるように分かり易く記入している。また支援者も担当制にはしていないのでどの支援者が次に療育を行ってもその子の様子や進み具合などが分かるようになっていく。連絡帳に書いて下さった悩みなどは気持ちを共感しながら一緒に考えて答えていくようにしている。	療育日誌はそのまま保育園や幼稚園に持っていき、担任等に見て頂き情報共有出来る様にしている。また他の療育を利用している方はそこにも持って行っていただいている。お互いに見学をしてより理解が深められるようにしている。保護者の方と直接会ってお話出来るように時間も作っている
3	・社長が児童精神科医のドクターであること	月に一回社長とのミーティングを行い療育で困っている事を聞くことが出来たり研修も行っている。	保護者様の中でも困っている事や聞きたいことがある場合には社長との相談会も開けるようになっていく。また、保護者向けに研修会・座談会も行っている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様との連絡方法が電話のみでライン等行っていない事	事業所の携帯電話が無いため	保護者様の希望などを聞き、今後取り入れるかを検討していく
2	アセスメントツールなどのシステム導入していないので、自分で検討しており時間も労力もかかっている事	システムを導入していない事	システム導入を検討するとともにシステム以外でも使い易い物を探してラビットハウスに合う方法を考えていく
3	トイレ等バリアフリーにはなっていない所 園庭が無い所	今の所肢体不自由児の受け入れを考えておらず、その部分をリフォームしなかった為	肢体不自由児の受け入れは考えていないが、小さいお子様達が利用しているので必ず職員が付き添い事故等ない様に十分注意いく。